

牛久：学校周辺に見る自然

第27号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年6月3日発行

< 晩春の校庭の植物 ～⑧草本(単子葉類) >

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物。今回は単子葉類の草です。



もうしばらくすると単子葉類の草はぐんと増えてくるのですが、今回はイネ科だけでした。まずは、カモガヤ。スギなどと同様、風で花粉が運ばれる「風媒花」で、夏の花粉症の原因になるともいわれます。風媒花の花は虫を誘う必要もないので目立たないものが多いといわれますが、イネ科もそうですね。

イネ科のカモガヤ(左)と花穂(右)



続いて、ネズミホソムギ。よく似たネズミムギとホソムギがあり、その中間的特徴をもったのがネズミホソムギなのですが、難しいです。

チガヤは、ビオトープ前で咲いていました。取り入れたものか、もともと生えていたのかは分かりません。公園や道ばたでは、よく見かけます。

スズメノカタビラは、どこの校庭でもよく見られますね。かたい地面でも、アスファルトの割れ目にも生えてきます。【理科支援員：宮内】



ネズミホソムギ?(上2枚)とチガヤ(左下)、スズメノカタビラ(右下)。